

令和5年1月17日亀岡市教育委員会会議録

- 1 開会 午後2時00分
閉会 午後3時22分

2 出席委員

神 先 宏 彰	教育長
北 村 真 也	教育長職務代理者
末 永 礼 子	委 員
出 藏 裕 子	委 員
福 嶋 百合子	委 員
陀 安 一 郎	委 員
秋 山 伸 夫	委 員

3 欠席委員

なし

4 出席事務局職員

片 山 久仁彦	教育部長兼文化資料館長事務取扱
久 保 日出樹	次長兼総括指導主事
岡 田 康 宏	教育総務課長
内 藤 一 彦	学校教育課長
樋 口 竜 次	社会教育課長
山 崎 浩 久	社会教育課人権教育担当課長
岩 崎 盛 雄	歴史文化財課長
桂 和 裕	学校給食センター所長
谷 仁 志	図書館長
谷 口 正 二	みらい教育リサーチセンター所長
阿比留 綾	教育総務課副課長兼総務係長事務取扱

5 傍聴者

なし

6 議事の概要

(1) 開会

○教育長が開会を宣言。

(2) 前回会議録の承認

令和4年12月20日に開催した定例会の会議録を一部加筆修正後、承認した。また、12月28日に開催した臨時会の会議録を承認した。

(3) 教育長からの報告

○教育長から以下の報告があった。

◎亀岡市関係

- ・つつじヶ丘小学校の平和学習の成果発表のため、学校内に開設された平和学習資料館を視察した。
- ・第39回近畿中学生ソフトテニス選抜インドア大会に出場する亀岡中学校ソフトテニス部を激励した。
- ・別院中学校の生徒たちが栽培した葉牡丹の贈呈を受けた。
- ・令和5年度に開催が計画されている中東和平プロジェクトin亀岡の第1回実行委員会に出席した。
- ・令和4年度亀岡市いじめ防止対策委員会を開催。新たに任命した委員への委嘱状交付及び委員長、副委員長の選任を行い、その後所管事項について協議した。
- ・臨時教育委員会を開催し、教育委員会事務局の管理職人事について協議した。
- ・仕事始めの式において市長が新年の抱負を述べられ、その後、教育委員会事務局職員に対し訓示した。
- ・新春年賀交歓会へ出席し、関係団体役員等と懇談した。
- ・校園長会議で、管理職として新年度を見据えた学校運営体制づくりに取り組むよう指示した。また、Withコロナにおける教育活動についてグループ協議を行い、各校の情報共有を図った。
- ・令和5年亀岡市はたちの会をサンガスタジアムbyKYOCERAで開催。675名の参加があり、大きな事故等もなく無事に式典を終えることができた。
- ・学校給食センター仕事始めの式に出席し、安全安心な給食の提供について関係者に訓示した。
- ・学校規模適正化に係る育親中学校ブロック協議会を開催。育親学園の開校に向けた調整会議の進捗についての状況報告と今後のスケジュールを確認した。
- ・亀岡市老人クラブ連合会の新春会長・役員会に出席し、祝辞を述べた。
- ・亀岡市障害児者を守る協議会 新成人・新年を祝う会に出席し、新成人4人が参加され、祝辞を述べた。

○報告を受け、委員から次の意見があった。

秋山委員 はたちの会第2部のつどいに関して、中学校別となると私立中学校出身者は少数であるため、地域の友人がいる場所で懇談したくても、その場に行きにくいこと

も考えられる。
中学校区別とした方が良いのではないか。来年の検討事項として要望する。

(4) 議 事

議案番号	件 名
第15号議案	亀岡市立学校施設使用条例の一部を改正する条例の原案決定について
第16号議案	令和5年度使用教科用図書（特別支援学級用）の採択について

○第15号議案について教育総務課長が議案説明を行った。

第15号議案は、令和4年度末で別院中学校が閉校することに伴い、社会教育活動の促進や社会体育の普及振興を図るため、亀岡市立学校の屋内運動場及び屋外運動場などを学校教育に支障のない範囲において、社会体育団体など市民等が使用することについて必要な事項を定めた当該条例を改正するものである。改正内容は、学校施設の使用料について定めた第7条の別表で、屋内運動場の1時間当たりの使用料を①の区分100円と定めている学校から別院中学校を削除するものであり、施行日は、令和5年4月1日を予定している。

第15号議案について、原案どおり承認した。

○第16号議案について学校教育課長が議案説明を行った。

第16号議案は、学校教育法附則第9条の規定により、令和5年度に東別院小学校4年生の特別支援学級で使用する一般図書について、教科用図書として採択を求めるものである。

本議案は、令和4年8月16日開催の教育委員会で第7号議案として提案し承認された図書のうち、地図と理科の科目について、文部科学省から在庫不足により、供給できない旨の通知があったため、今回改めて採択を求めるものである。

第16号議案について、原案どおり承認した。

(5) 報告事項

- ①学校規模適正化について
- ②令和4年度卒業式、令和5年度入学式の日程について
- ③令和5年度亀岡市立学校小規模特認校転入学児童の状況について
- ④亀岡市中学校選択制デリバリー弁当物価高騰分補助金交付要綱の制定について
- ⑤令和5年亀岡市はたちの会の実施報告について

- ⑥文化施設のあり方を考える懇話会の報告について
- ⑦亀岡市デジタル文化資料館構築業務の進捗状況について
- ⑧令和4年度人型ロボット（Pepper）活用事業の進捗状況について

○各課長等からの報告を受けて、委員から次の質問・意見があった。

<学校規模適正化について>

福嶋委員 亀岡市には既に義務教育学校として亀岡川東学園があり、今後検討を進めていくうえでは参考になることも多いと考えられるが、調整会議のメンバーが視察に行く予定はあるのか。

実際に視察をして感じることも多いと考えられるので、調整会議のグループ代表者などの視察の機会を設けることを検討いただきたい。

教育総務課長 現在、視察に行く計画はないが、12月に開催した通学・施設検討グループの調整会議において、前期課程児童と後期課程生徒が共用して使用する教室を検討するうえで、亀岡川東学園の状況を参考にしたいとの意見があったため、1月開催予定の調整会議で資料提供を行う予定である。

今後、視察の希望があれば検討していく。

教育部次長 亀岡川東学園の視察は実現していないが、他の義務教育学校の視察状況に関して報告をさせていただく。

西部地域の学校長と教育委員会事務局で構成している教育課程検討会議のメンバーで、京都市立大原小中学校や京都市立京北小中学校を視察した際に、コンセプト検討グループの構成メンバーである自治会長も同行され、実際に視察をいただいた。

今後、それらの視察で得たことを参考に、教育課程や施設等について検討を進めたいと考えている。

<令和4年度卒業式、令和5年度入学式の日程について>

出藏委員 新型コロナウイルス感染症が発生する以前であれば、卒業式や入学式に自治会関係者や学校安全協力員も参列されていた。

また、「はたちの会」には参加者の恩師も出席いただいております。式典自体に温かみを感じた。

式典では祝辞を最低限にするなど引続きの対策は必要と考えるが、特に今年は別院中学校で最後の卒業式を開催することとなるので、関係者の参列だけでも可能とする

よう検討しても良いと思うが、事務局として考えはあるのか。

教育部次長

卒業式の開催方法については、校長会と事前確認をしている。

コロナ渦であり、感染が収束していない状況では、今年度も一定の制限のもと実施せざるを得ないと考えている。具体的には、式典の時間は1時間程度とすること、来賓は教育委員会、自治会関係者、PTAとすることを確認している。

ただし、今年度の卒業式では学校長の祝辞に加え、教育委員会告辞の読み上げを再開する予定である。

<令和5年度亀岡市立学校小規模特認校転入学児童の状況について>

末永委員

令和5年度小規模特認校転入学児童の増加は顕著である。昨年度まで募集要項を各校で作成していたものを、今年度から一本化し、各校の特色の比較がしやすいように改善したと以前の教育委員会で報告があったが、今回の増加要因として事務局として分析していることはあるのか。募集要項の一本化に加え、日程を統一したことで、亀岡市のホームページやLINE、広報誌でも一括して広報することができたことが増加の要因と考えている。

学校教育課長

末永委員

以前の教育委員会で、小規模特認校制度の効果について分析、評価を行ったうえ、制度自体の今後のあり方について検討する必要があるとの論議があった。

令和5年度の児童数増加が、募集要項や日程の統一を図った結果であるのかは不明であるが、当初目的とした複式学級の解消という成果も現れてきているので、今後も慎重に検討していかなければならない。

学校教育課長

今回の報告は速報であり、最終的には4月1日の入学者数で確定する。今後、その結果も踏まえ詳細に分析した結果を報告させていただくので、再度ご協議をいただきたい。

北村職務代理者

小規模特認校制度のあり方について議論をしていかなければならない時期に来ている。

小規模特認校制度を利用する児童が増加している要因として、小学校における不登校の児童や支援を要する児童の増加と相関関係にあるのではないかと考えられ、社会全体的な傾向であれば、今後も小規模特認校制度を利用する児童は増加することが考えられる。

小規模特認校制度の開始時は、山間地にある学校の児童

数の減少を防ぐことが目的であったが、社会情勢の変化により、大規模校等に馴染めない不登校や支援を要する児童たちのためということに目的が変化してきているのであれば、そのことも含めて制度をどのように維持していくのかを再検討していく必要がある。

出 蔵 委 員

学校の授業に付いていくのが難しいという理由で、特別支援学級に児童を通わせている保護者から、学習時に普通学級で使用している教科書を使用しないことが、不安であるとの話を聞いた。

大規模校において集団生活に馴染めず、学習面でも遅れが出ている児童の保護者で、特別支援学級への入級を検討している方もいるが、小規模校で教科書を使って学習をすることができるということであれば、今後も小規模特認校制度を利用する保護者は増加すると考える。

当初の趣旨とは異なってきているとしても、保護者の選択肢として小規模特認校制度があることは、安心材料の一つになると考える。

陀 安 委 員

小規模特認校の東別院小学校や西別院小学校に児童を通わせている保護者が、卒業後、別院中学校に進学させたいと考えているかは不明であるが、南桑中学校への編入が決定したことで、何か意見は出ているのか。

学校教育課長

小規模特認校制度を利用して東別院小学校や西別院小学校を卒業した児童は、ほぼ全員が別院中学校に進学している。

別院中学校の南桑中学校への編入が決定する前から小規模特認校制度を利用している児童保護者から意見があることは事実であるが、南桑中学校または居住校区の中学校を選択するよう説明、理解を求めている。

陀 安 委 員

東別院小学校や西別院小学校卒業後の進学先が南桑中学校または居住校区の中学校となれば、それなりの規模の学校になるにも関わらず、転入学を希望する児童が増えているということは、小学生の間だけでも小規模校を希望されていると理解してよいか。

学校教育課長

今年度の募集要項には、卒業後の進学先は南桑中学校もしくは居住校区の中学校の選択と記載しており、昨年度も同様の情報を記載しているので、承知で転入学を希望されていると理解している。

北村職務代理者

小規模特認校の制度設計時の目的と状況が変化し、不登校児童や支援を要する児童の利用が増加しているのであれば、それらの教育課題に対して、どのように取組んで

いくのかという考えも整理していく必要がある。
考えを整理したうえで、小規模特認校の特色として打ち出していくのかといったことも含めて、小規模特認校制度のあり方について、あらためて議論をしていかなければならない。

<亀岡市中学校選択制デリバリー弁当物価高騰分補助金交付要綱の制定について>

福 嶋 委 員 昨今の物価高騰から考えると必要な補助金である。当該補助金は令和4年度のみ対応であるのか。令和5年度も対応できるのか。

学校教育課長 令和4年度のみ決定している。
教育委員会事務局としては令和5年度も対応できるよう、現在、財政担当課と新年度予算協議を行っている。

福 嶋 委 員 次年度も継続していただきたい。

<令和5年亀岡市はたちの会の実施報告について>

出 藏 委 員 新型コロナウイルス感染症対策への気の緩みもあるのか、開始前から式典中まで騒々しい雰囲気であった。開放的な屋外という環境では難しい面もあるが、今後、式典中は厳粛に、集いでは楽しむといった雰囲気となるような工夫を検討していかなければならないと感じた。

また、成人の日という意味合いを考えると、新たに成人をした18歳の方にお祝いをする必要であると考えるが、何か対応はしたのか。

社会教育課長 今年度、新たに成人となった18歳及び19歳の方にはお祝いメッセージを送付する準備を進めている。

北村職務代理者 自身の経験上でも、かなり騒々しかったという印象がある。原因は寒さもあるが、実行委員が一生懸命に話していても、あまり聞いていないという状況も見受けられ、一体感が感じられなかったのではないかと考える。

その解決のためには、屋内での開催も検討しては良いのではないかと考える。

<文化施設のあり方を考える懇話会の報告について>

末 永 委 員 ガレリアかめおかやサンガスタジアムと一体的に一区画を成すような大型の文化施設を整備した方が、より魅力的な施設になるのではないかと感じた。

歴史文化財課長 同様の意見も挙げられていたが、広大な敷地が必要になるという点、また、文化資料館は博物館となるため、完成後から一定の乾燥、通風期間を設けなければならず、複合施設となると、文化ホールの部分も期間中開館がで

きないといったことも考えなければならない。

教育部長 博物館を開館するまでには、建物完成後、乾燥通風期間として2夏、概ね2年間を設けて、湿気を乾燥などさせる期間が必要と規定されている。

一体的整備をした場合、文化ホール側は利活用が始められる状況でも、博物館側が開館できるまでの2年間、開館を待たなければならないということは望ましくないという意見も出ていたと聞いている。

<令和4年度人型ロボット（Pepper）活用事業の進捗状況について>

出 藏 委 員 Pepperには会話をするプログラムは組み込まれているのか。

みらい教育リサーチセンター所長 会話をするプログラムはない。あらかじめプログラムされた言語を一方向的に話す機能に留まっている。

出 藏 委 員 子どもたちに渡しているタブレット端末には、会話ができるアプリも組み込まれている。Pepperにも同様の機能があれば、コミュニケーションツールとして、更に有効活用ができるのではないかと感じた。

(5) その他

○オンラインで参加した陀安一郎委員については、亀岡市教育委員会会議規則に基づき出席したものとみなす。

(6) 閉会

○教育長が閉会を宣言

以 上